

范陽の居士鄧水に來る。地を動ず仙隱人に向つて起る。乳峯直に上つて雲霞開く。天衢に歩驟して此の如くなるに到る。茫々たる塵世誰か交を知る。場に當つて我に問へば相饒すに非ず。禪家畢竟他事無し。古雪巖の前曾て未だ消せず。俄然として悵望して叢室を辭す。荷負すること難し今涙深く溢る。遠く流方に幸す且た論すること莫れ。再び得て從容すること又何の日ぞ。迢々として故國殊に存想す。冷碧たる柯山分つて掌を指す。況んや覺雄の華藏師有り。百城に歸り去つて共に游賞せん。

廣教專使を送る

峩々たる石頭、讓祖に使へたり。己存するに匪す、聖も奚んぞ慕はん。或は妄りに山を以てし、或に索むるに斧と云ふ。音耗通せず今、清

に苦しむ也。  
① 洞壑、したれ、虫にはまるゝを云ふ。年寒うして後凋の意也。  
② 德星は瑞星なり、又曰く、景星なりと、其狀常なく常に有道の國に現る、弘明に曰く、「道開境に入る、仙人星見る、羅什闍に入る、德星野に見る」と。  
③ 武夷は山名、建州にあり。  
④ 賢者のことを形容して云ふ。  
⑤ 大道外にない、且だ平凡の中に存す。  
⑥ 社主遺法師、廬門の人、年廿一にして道安の般若を講するを聞き、豁然として大悟し、乃ち嘆じて曰く、「儒道の九流は、皆糟糠のみ、遂に弟慧持と誓を投じて落髮す、常に大方を以て己が任となす、廬山西林の側に之く、山神地を開き木を運び寺を建て之れに居

らしむ、是に於て講律の徒、總麻の客、期せずして至る、所謂宗雷等の十八人同じく淨土を修す、影迹塵俗に至らず、客を送るに虎溪を以て界と爲すと、即ち是れなり。  
⑦ 子の別るゝに臨みて涙が出で別離の情に堪へぬ。  
⑧ 爾雅に、「荷芙蕖別に芙蓉と名づく、江東に荷と呼ぶ、其の莖は茹、其の葉は蕖、其の木は蕖、其の花は菡萏、其の實は蓮、其の根は藕、其の中は的、的中は慧」と。  
⑨ 大道、機存すれども其の人によりてよろし、未だ必ずしも可ならず。  
⑩ 楊子に孰か書するに筆によらず、言ふに舌によらざるものあらん、我天常を見るに、帝王の筆舌となす。説者曰く、「天常は五常也、帝王之制奉する所也」と。

源派分る。吾が斯の語分、詎ぞ古を論すべき。

微文章を送る

雙蓮亭上行客を送る。 菡萏清香秋色を散す。野興斷山雲片高し。孤影澄江月華白し。希聲險絶す誰か知るに堪へん。 ① 大道機存するも曾て未だ可ならず。縦ひ ② 天常を聞いて下風に立たしむるとも、安んぞ ③ 類變をして流火を養めしめん。君見すや ④ 梁たり兮、闔國滯留し難し。千古恨を遺して空しく悠々。君又見すや魏たり兮、小桂寒翠を生ず。一花雪に對して開いて休むこと無し。微禪亦並に芳駕を聯ぬ。德星文星瀟酒を仰ぐ。物外情深うして等閑にあらず。 ⑤ 環中趣別にして輕しく捨つるに非ず。相訪うて從容として我が爲に言ふ。指を屈して多く求む更に何者ぞ。

懷秀禪者を送る

麻衣草座 ① 靈徹を思ふ。一食安閑なるも更に別無し。倏忽として遷流す數百年。杳々として誰か來つて其の絶えたるを繼がん。吾分亦是れ疎慵の輩。冷淡たる身心 ② 慷慨を存す。偶ま靈峯照夜の燈を續ぐ。邊に鐵船を泛べて滄海を下る。深く嗟く困を知つて休することを知らざることを。駭

⑬ 楊子に曰く、「螟蛉の子産れて蟻窠に逢ふ、呪して曰く、類我、類我と。久うして則ち肯たり」と。搜神記に曰く、「土蜂を蟻窠と名づく、俗に蟻窠と謂ふ、其の物たる産せずして常に桑虫の兒を抱いて、之れを育つ、即ち化して己が子と成す。化書に曰く、「蟻窠の虫、螟蛉の子を孕して其の情を傳へ、其の精を交へ、其の氣を混ましめ、其の神を和し、物の大小に隨つて其の眞を得、蠢動定情なく、萬物定形なし、小人是れに由つて知りぬ、馬も飛さしむべく、魚も之れを走らしむべく、土木偶も之れに知あらしむべし」。達磨梁に九年面壁、たゞ慧可一人を得たるのみ、遂に魂熊峰を去つて祖國に歸る。  
⑭ 芒祖達磨に謂ひて曰く、「吾が滅後六十七年、當に東方震旦

浪に奔馳して空しく淹留す。縦ひ長籠を得たりとも何を待たんとか擬する。白頭に堪ふる時好白頭。因つて壞衲の秀禪客を觀る、清苦にして冰の如く復た藥の如し、我に別れて笻を携へて大方に歩ぶ。葉たり花たり恣に披拆す、枕に仗つて寥々として情意閑なり。率に狂歌を寫して行色を贈る。

孤運の銘

雲根石 壑に身を容れて老を待つ。南來北來閑に且た尋討す。五葉一花兮誰に對するにか堪へたる。寥々たり萬古兮空しく有ることを知る。

海會の長老に寄す

百花開いて後一花開く。風清香を遞つて遠々として來る。誰か問ふ。黃梅不平の事、照中舊

著る、唐の江西使章丹と友たり、嘗て師に絶句一首を寄す、曰く、「王事紛々として暇なき日、浮生冉冉として只雲の如し、已に子に歸休の計を爲す、五老巖前必ず共に聞かん、欲之れに酬いて曰く、「年老い心閑にして外事なし、麻衣草坐亦身を入る、相逢ふ盡く道ふ官を休め去らんと、林下何ぞ曾て一人を見ん」と。

② 慷慨の情、當に慨に作るべし、志を得ずして嘆する也。

③ 淹留はとゞまる也。

④ 切株より生ずる若萌、ひこばえをいふ、老いて尙ほ若々しきをいふ。

⑤ 大道又は四方をいふ。

⑥ 墓穴を壞といひ、又は石室をいふ。

⑦ 瓜熟して蒂落ち、水到つて溝成る。

⑧ 黃梅下神秀偈に曰く、「身は是

きに依つて塵埃を惹く。

雜言して賢專使を送る

使なる乎誰ぞ原作者、百戰場中鐵馬を飛す。秋水藏め來つて人知らず。笑ふ。李將軍の擒下せらるゝことを。阿呵々、卻つて湖山に歸つて凱歌を唱へん。

歌つて四明の汪君信士を紀す

古君子兮諸を己に道として、道の器用兮天理に合ふ。同塵還つて時を待つて生ずるが若し。象を觀ば知らず何の處よりか起ると。荆叢々我叢々に襲ぐ。孝たり兮憐たり兮泚中に非じ。聚るときは落々として仙露を滴すべし。散るときは或は冷々として土風を揚ぐべし。之を上には一馬、秋水澹交限無きの情、夜光。照乘胡爲

れ菩提樹、心は明鏡臺の如し、時々勸めて拂拭せよ、塵埃をして引かしむること勿れ。遂に大滿師の意に適はず、衣鉢を慧能に移す。今此の清香を聞く、亦期する處ある也。

① 惡魔斬魔的の智劍、藏することを知らず。

② 漢傳に飛騎將軍李廣多く匈奴と戦つて勝つ、單于素より廣の賢なるをきき、「李廣を得ば必ず生きながら之れを致せ」と、一日廣を得たり、廣を兩馬の間に臥せしめ、行くこと十餘里にして、其旁に一の胡兒の善馬に乗るを見、胡兒を落し、其の馬に乗じて遂に又凱歌を奏して漢に歸ると、匈奴稱して飛騎將軍といふ。

③ 芳芽の生ずるや、先塵に同じ時を得て生ず、便ち芳香を蓋中に放つ、人も又斯の如きか。

④ 吳均が續齊諧記に云ふ、「京兆

の田眞、弟の田廣、田黃と議して財を分たんとす、庭前に紫荆あり、花葉甚だ盛なり、一夕樹即ち枯死す、眞之れを見て驚き、弟に謂うて曰く、「樹本一根、吾等の異居を見て便ち枯死す、況んや人の兄弟孔だ懐うて而も異離すべき、是れ樹にだも如かざるなり、二弟共言に感じて遂に已む、樹一旦に復た榮ゆと。

⑤ 詩に曰く、「藝々たるものは我、我にあらす、これ蒿、哀哀たる父母我を生じて劬勞せり、孝子兩王を刺る詩にして孝子の父母を養ふ能はざるをいふなり。

⑥ 詩序に曰く、「詩に六義あり、一に曰く、風、二に曰く、賦、三に曰く、比、四に曰く、興、五に曰く、雅、六に曰く、頌、上は風を以て下を化す、下は風を以て上を刺る、文に主り

者ぞ。伊れ予れ餘力を存すと謂ふに匪す。高義を詠じて分智臆を困む。  
巴歌百字巖葉に書す。飛し寄す汪門の舊知識。

仲郷 禪徳を送る

高らかな分 竺卿 秋水虚明なり。夫れ何の象ぞ。云に程を指すに堪へたり。吾を知るとして知るにあらず。伽耶城を笑ふ。(理、情謂を出づ、宜しく掌を撫つべし。)

眞州の資福禪院に新に鐘を鑄る 銘并に序

國朝の紫微舍人趙公、丙戌の年出で、姑蘇を鎮す。情を裁しうして空巖の客に示す。恨むる所は、善財に効つて南方に展轉して、以て先覺を求むること能はざることを、別幅に叙ぶるが如し。雲岳の長老僧惠敏をして鐘を造らしむ。既に成る重樓を翫めて以て之を、虞く、銘記を爲らまく欲す。且つ言ふ當に學者をして警悟する所有らしむべしと。槩也、縦ひ能く其の 歸を道ふとも、禪人惡んぞ肯て信せん。惟みるに師は善知識たり、重名を當代に行ふ。願はくは此の銘を爲つて、機に因つて化を垂るれば、亦美からざらん乎。然れども 重顯固陋にして大君子の外獎を荷へり。敢

て誦諫す、之れを云ふもの罪なく、之れなきくもの以て自ら戒む、故に風といふ」と。  
① 近く一指は、これを我身にとるなり、遠く一馬は、これを萬物にとるなり。

② 魏の惠王の曰く、寡人の國の如き小なりと雖も、徑寸の珠あり、前後の車各十二乗を照らす者十枚」と。

③ 宋玉の所謂下俚の巴歌、國中屬して和するもの數千人と、巴は巴州にて鄙歌をいふ也。

④ 釋子の通稱、謂ゆる竺國の脚輔也、又此三公九卿の如し。

⑤ 釋尊、伽耶城に成道し給ふ。

⑥ 銘は名也、其功を記銘し、其功を美して稱すべからしむ也。

⑦ 善財童、南方に行脚して善智識に見ゆることの出来ぬを恨みとするをいふ。

⑧ 虞は鐘の頭、鹿頭龍神獸なり、即ち鐘を懸くる所なり。

て命に従はざらんや。輒ち復た引をもつて寄す。

夫れ形聲未だ先ならず、曠默にして笑の准

かあらん。器用の後に、幽靈常を絶つ、故に

聖人鐘を以て大なりと爲す。惟だ聖人之を則

る。襲と兮忘と分求むるに以て深し矣。其れ能

く諸の 種智を具し、飛雄辯に對す。但だ未

だ有生權化の來ることを兼極めず。未だ窮め易

からず也。感通傳に稱く、昔枸留孫乾竺に於て

青石の 鐘を造る。青玉の色の如し、十斛を容

つべし。頂諸天に類し、腹衆寶を陥る。八角

四面、花光互に分る。化如來有つて、日と偕

に出づ、明に宣べ秘して演ぶ、或は聞くも聞か

ざるも、王舍城の中、大千界の内、同じく 鐸

鐸たる者に匪すや。今岳禪老、淮甸に於て青

銅の鐘を造る、青珠の色の如し、百鈞の用に過

① 紫微趙公の名なり。

② 歸は歸趣也。

③ 雪寶の名也。

④ 默々として無聲にして良萬人の准として化をなさんや。

⑤ 付法傳に曰く、羅服吒王極めて大聰明四海を威服して九億人を殺す、因つて馬鳴の説法を聞く、方に先非を悟り、地獄に入るを恐る、後病す、逆臣に面上に座せられて氣絶えて死す、大海中に墮ち千頭の魚となり、常に鉞輪ありて身に隨ふ、鐘聲を聞く、毎に少しく其苦を息む、乃ち夢に託して子の爲めに鐘を長打せしむ」と。

⑥ 根本智内證眞如法報二身一切智に名づく、後得智は外有縁を照し、物に應じて形を現じ、水中の月の如く、即ち三種の化身種智と名づく也。

⑦ 世尊、飛流の大辯を具し給ふ。

⑧ 枸留孫滅後、安駕龍王收め去る、釋迦佛の時に至りて龍復

將ち來る、佛滅後に至つて鐘先づ唱へて言く、却後三月當に般涅槃すべし、鐘鼻の諸天聞いて皆涕泣し龍復將去る。

③ 鐘々は金聲の爽亮たるなり。

④ 揚州北界東は海に至る、水名。

⑤ 鐘に影隨するものか。

⑥ 寺の通稱、祇陀大子の園に由りて精舍を造る故に名とす。

⑦ 朝夕をいふ。

⑧ 一に天聽、二に人聽をいふ。

⑨ 肉眼、天眼、慧眼、法眼、佛眼をいふ。

⑩ 梵座に同じ。

⑪ 羅列するなり。

⑫ 禮記の備行に、孔子哀公に對へて曰く、儒に忠信を甲冑となし、禮儀を干櫓となし、仁を載きて行き、義を抱きて處るものあり、暴政ありと雖も其所を改めず、其自ら立つことかくの如し」と。

⑬ 大聲微聲をいふ。

⑭ 菩薩の人涅槃をとらずして利生するが悲増といふ。

きたり。上旋り旁植てり、獸を繞らし熊を蹲らす。其れ或は層城畫閣に、祇園夜永し。寥々たる霜月寒影を射る、以て輝を争ふ。殷々たる地雷虚音を發して交々振ふ。師之唱險しく資之繼ぐこと難し。寅夕鏗々たり、主伴索々たり。一鱗半甲をして、眞化の方に違すること無うして、二聽五觀神游の域に寄ること有らしむるに足る。善く存し殊に應ず、扣くこと惟れ良い哉。謹んで銘を爲つて曰く、

准之要衝、眞之會府、中に梵摩を列ねて、我が禪祖を居らしむ。參徒駢羅し、慧敏于櫓なり。爰に鯨音を構へて、彼の輪苦を息む。峻しく崇臺を横へて、金飛び碧回る。斯門屢掩ふ。人に向つて或は開く、希たり兮微たり兮、乍ち延べ乍ち催る。先聞も未だ及ばず、後の時も來らず。悲を増して遐かに宜ぶ。天理に困むこと無く、希識萬端なり。警悟齊しく起る。晦に遑つて明に陟らしむ。其れ母の子を得るが如し、塵々に誰にか訪はん。刹々に己に問ふ、大緣斯に成す、大功率あらず。君は禹湯を奉じ、臣は元凱を仰がん。紺園に碑勒す、銘に文彩寡し、庶はくは妙峯に期して、永く滄海に聳えんことを。

② 大功、幸あらず、以て大功を成す所以なり。  
③ 元凱は八元、八凱をいふ、八元前に見ゆ、八凱は高陽氏の子才子八人、蒼舒、隤鼓、檮、大臨、左降、庭堅、仲容叔達の者並びに齊聖廣潤明允篤誠なりと。  
④ 紺園は西城に給孤獨園、祇園、金園、菴園等、園は福懸を群生種植するを以て義と爲す、即ち寺院をいふ、釋名に、背にして赤を命むと、内教に多く紺目紺髮と稱す、此の義を取る。  
⑤ 金石に文を刻するをいふ。

國譯慶元府雪竇明覺大師祖英集 下終

慶元府雪竇明覺大師祖英集 上

參學小師文 政 序

師之形言也、且異乎陽春白雪、碧雲清風者也、夫大圭不琢、貴乎天真、至言不文、尚於理實、乃世之衡鑑、豈智識而擬議哉、師自辰止翠峯雪竇、或先德言句淵密、師因而頌之、或感興懷別、貽贈之作、固亦多矣、其有好道者、並錄而囊之、一日惣緝成二百二十首、乃寫呈師、師曰、余偶興而作、寧存于本、不許行焉、禪者應曰、乃祖闢千載之芳烈也、勿輕舍諸師、察其懇志、勉弗獲已、抑而從之、文政幸侍座机、輒述序引用識歲時。

送寶相長老并序

大師歡禪德、將赴丹丘、辟命光闡宗乘、蓋時應必行、固不可抑留者也、且撫會之作、肇曠絕之道、雖一凝一流、一彼一此、又何間然、率織蕪辭、以代賚別。奧域靈區、存物外、獨標台嶺、爲絕槩、掩勝潛、奇列作屏、推青寫碧、深如黛、彤霞暖影、生巖壁、香桂茂陰、籠薛石、赤松子也、浪虛閑、白道猷兮、大輕擲、曹溪有叟、歸其中、風從虎兮、雲從龍、乘與正值、二三月、坐斷還依、千萬峯、花飛飛日、遲遲、清颺颺、吹無時、玲瓏八面、自回合、峭峻一方、誰敢窺、窺來須得、乾坤眼、照古騰今、謂非間、若能此去、副全提、開發人天、有何限。

送法海長老

常愛裴相國式芳塵，斷際高風慕要倫。擬欲事師為弟子，不知將法付何人。常愛李相國垂列星，藥嶠深源宅性靈。我來問道無餘說，雲在清霄水在瓶。緬想當時二台輔，出鎮蕃維訪諸祖。寥寥浮幻輕百年，落落宏規照千古。今聞仙都賢太守，入政襄帷聲浩浩。英佐一分化條文，經武緯亦難討遠。遠賤函飛乳峯，選開士兮恢吾宗。觀夜光非震滄海，聆正音豈玩焦桐。徒誇麟龍自西自東，應排罔象得象，必須覺雄讓雄。今既塞請還也奇別，茫茫普熱紛紛下雪，倒流四河載發枯枿，卷舒立方外乾坤。縱橫挂域中日月，黃頭碧眼知未知。去去憑誰繼清絕。

送文政禪者

古有焦桐音聽寡，不在彈。古有陽春曲，和寡不在言。言兮牙齒寒未極，離微根，彈兮歲月闌未盡。昇沉源少林，幾坐花木落。庾嶺獨行天地寬，因笑仲尼溫伯雪，傾蓋同途不同轍。麟兮鳳兮安可論，許兮巢兮復何說。秋光澄澄蟾印水，秋風蕭蕭葉初墜。送君高蹈誰不知，如曰不知則為貴。

送昭敏首座

君不見鷺峯勝集，百萬茫茫等閑過。壞衲之外皆清墮，君又不見熊嶺孤運，歲月索索艱難生。深雪之中有一箇，宛轉流落千餘年。危分嶮布空平闊，辨龍蛇兮眼何正。擒虎兇兮機不全，石窻四顧滄溟窄。寥寥不許白雲白，掣斷金鏢天麒麟。高舉鐵鞭擊三百，猶輕舍爭知也。別有七星光闌射，風前把欲贈行人，將報不平遠天下。

送知白禪者

松不直棘不曲，誰笑卞和三獻玉。經天緯地太無端，邁古超今亦輕觸。靡羈束何必干，素範還還真規復。梅檀葉落香風清，千里萬里長相逐。

送勝因長老

黃梅散席三百載，續燭聯芳事。空在宗兮派兮生，異端花兮葉兮太煩碎。韶陽間出多慷慨，權要英雄曾絕待。曲木據位知幾何，利刀翦却令人愛。近還有箇披老衲，楚甸橫身風颯颯。鐵作一尋非等閑，壁立千仞須摧蹋。報君知，江南江北徒榮業。鼉轉海運兮，織鱗片甲雷奔電驅兮，寸毫尺釐斯言勿謂存規矩。平不留兮險非取，周行獨立如便休。誰振宏綱照千古。

送重郢禪者

春雨如膏，春雲如鶴。忽此忽彼，乍休乍作。枯荻離離，維風大遲。幽石片片，遼空亦危。一花五葉，今不相似。獨運孤明兮，還自知。還自知，歷魏游梁徒爾為。

送僧歸靈隱 因囑白雲無礙

白雲無礙，冷淡清奇。雪格未可，鶴態還卑。垂夫沃日兮，似結不結。為雨從龍兮，後期必期。噫，悠悠忽爾，春風吹。南北東西，唯我知。誰知蘆菖峯前布影時。

送僧之石梁

萬卉流芳，不知春力。巖畔澗下，蹙紅皺碧。乘興復誰同，孤蹤遠驛敵。君不見，五百聖者導雄機，靈峯晦育深無極。寒山老寒山老，隨沉跡。迢迢此去須尋覓，花落花開獨望時。記取白雲抱幽

石

送師晏禪者

深巖寂寂披蘭芷，碧霧紅霞映流水。空生別我期未期，絕域殊方擬輕擬。堪笑歸嶺南，奔馳何鄙彼。危急亂拋下，盡云提不起。伊予本自不將來，相送奚憑挂唇齒。晏禪客晏禪客，師子子，應須落落存終始。君不見，古人有言兮，撲碎驪龍明月珠。大丈夫到如此，行行不用頻彈指。

寄白雲長老

八紘雲靜明寥泬，夜永松堂對寒月。凋殘片葉墜虛庭，冷寂何人立深雪。因憶錢唐邵禪者，十載巖栖曾未下。分飛誰謂絕相同，遠念冥冥欲奚寫。忽聞赴請之仙都，聲光藹藹登清途。孰云天驥驥方外，自笑大鵬離海隅。乾坤窄，乾坤窄，湛壺酒射斗牛白。茫茫無限未歸人，到必為時除點額。

送智遷首座

雲蘿杳杳巖巖曲，碧疊清飛冷相促。瘦藤輕袖休便休，短燭殘芳續何續。禪家本自冥羈絆，洲渚園林曾不憚。十影神駒立海涯，五色祥麟步天岸。君看取，君看取，匝地茫茫有誰舉。餽甌頻磨如未回，為吾深憶盧公語。

送善暹首座

名之基實之帶，深兮固兮宛相繼。古之名也在希聲，今之實也同浮賢。子州單卷之流也，堯騶舜馳讓無暇。歸去來兮歸不歸，到頭未出冥冥者。吾徒孰謂標奇絕，動靜憑君試甄別。葉谷零

兮秋暮半凋，花片片兮春暖齊發。暹禪老暹禪老，意會高曠排沾待。忽致譏褒，天人列請兮屢輕笑。祖佛位卑兮還擬逃，我恐逃之逃不得。大方無外皆充塞，茫茫擾擾知何極。八面香風惹衣袂。

送僧

吳山碧楚江碧，吳楚悠悠與何極。一尋寒木自為鄰，三事秋雲更誰識。乾坤不是無知己，玉石休云辨真偽。待時沾譽漫淪生，晦跡韬光亦何意。春風急，春風急，八駿奔馳追不及。南北東西把定時，為君直上孤峯立。觀氣分枝，非獨古有誠之言也。

頌藥山師子話送僧

錫憩金毛師子子，栴檀林下青莎裏。置也置也威自全，一出六出眉剔起。非擬擬知幾幾，星流不問三千里。天外風清哮吼時，為君吸盡西江水。咄。

送秀大師

巖竇宵寒擁山幟，月高古木霜禽睡。西庵禪者來扣門，別我凌晨下層翠。欲留不可留，寫意不及意。屈陶迢迢安足云，花偈聯聯太容易。君不見，瀏陽叟絕希冀。送人只道無他事，行行會有知音知。何必清風動天地。

送廣華嚴歸鷲峯

海山孤僻非蓬島，霧冷雲深松桂老。有客凝冬何太高，巨野宵征苦相討。巖房杳杳凌寒空，冰霜落落分譚叢。誰云百城沉古月，自笑八面生清風。俄然別我還歸去，惠理之徒望回馭。重重

無盡樓閣門，到必爲時略輕據。

送遠塵禪者

衲卷殘雲，風高絕鄰，倚天照雪，堪抗要津，八絃極目，今春山若黛，九野縱步，今汀草如茵，三四老未輕識，凜然方外奚相親。

送德陰山主

霜葉凋殘，巖風凜寒，彼之禪老，忽下崇巒，衲有雲兮，卷未卷，琴無絃兮，解彈不彈，迢迢既行，宜聽斯語，明暗路岐，生死洲渚，而今而後，知不知，頽網委地，憑誰舉。

送澄禪者

春色依依，襲爾原草，春風浩浩，拂我窗牖，念此分飛，贈無瓊玖，片片亂飄，巖上梅，條條縱舞，溪邊柳，澄禪澄禪，聽斯言，古也今也，行路難，知之者，石火星流未急，不知者，龍驥步驟曾寬，看看執云平地起波瀾。

送惠儂禪者

少林風規，何太蕭洒，籠古罩今，睥睨真睨，假誰云發，機射虎，自笑品類，觀馬，劍客茫茫，不要呈，餽人，往往須擒下，儂禪儂禪，崢嶸象駕。

送惠文禪者

正法眼絕，塵沙二三四七，水月空花，千燈續燄，曾問五葉，分披未葩，君不見，卷簾百丈，掩耳丹霞，龍行虎步，爭孤立，盡同雲雨，去無涯，文禪文禪，騰煥吾家。

送道成禪者

曹溪流非止水，一點忽來千波，自起直須釣鼈釣鯨，莫問得皮得髓，君不見石頭有言，今聖不慕他靈，不在己，成禪成禪，誰家之子。

送清演禪者

我年老大心力衰微，贈別無語，冥同振飛，因思古之送人有言，吾不知其殊途同歸，獨愛新豐曲騰清輝，寸草不生千萬里，出門春色共依依。

送繼寶禪者

寶非寶日杲杲，上上機無處討，赤水求來何太在，荆山覓得苦相惱，不惱不狂排夜光，險惡道中爲津梁。

送小師元楚

道之冥機，一何相守，汝競光陰，我親蒲柳，毋厚弁之奪席，毋蒲愚之誦箒，深思彼伐木丁丁之聲，照古照今，今宜善求友。

送清果禪者

春雨濛濛，春風颼颼，動兮靜兮，匪待時出，雲霞閑澹，作性金鐵，冷落爲骨，知我者謂我高蹈，世表不知我者，謂我下視塵窟，道恣隨方，情融羈鎖，紫栗一尋，青山萬朵，行行思古人之言，無可不可，南北東西，但唯我。

酬行叢長老

黃金爲骨松爲姿，道高曾鄙天人師。有言遺我千古奇，無人知石虎吞卻木羊兒。

至人不器

誰當機舉不賺，亦還稀。摧殘峭峻，鎖鑿玄微。重關曾巨闢，作者未同歸。玉兔乍圓乍缺，金烏似飛不飛。盧老不知何處去，白雲流水共依依。

因事示衆

石本落落，玉自瑤珠。古之今之一，何暫速。師子不咬麒麟，猛虎不食伏肉。君不見洞庭孤島煙浪深，木馬追風有人識。

日暮游東澗 五首

極目生晚照，溪雲偶成朵。大朴曾未分，青山自唯我。

極目生晚照，遠樹籠微陰。誰知清淺流，別有滄海深。

極目生晚照，幽情眷蘭蕙。白蘋葉裏風，不在秋江起。

極目生晚照，步影何遲遲。歸禽古木中，相對頻相窺。

極目生晚照，蓬萊匪仙境。釣得十二鼈，重來謝孤影。

思歸引 三首

一住翠峯頂，兩見溪草綠。不知朝市間，幾番生榮辱。蕭條巖上雲，冷淡水邊竹。報誰歸去來，向此空踟躕。

常憶在廬山，隨時寄餅錫。五百與一千，聚頭同遺日。猿攀影未回，鶴望情還失。教他王老師，癡

鈍無處覓。

時雨洒如膏，萬卉皆滋益。枯根甘自休，也似春無力。耕夫曉尙眠，蠶婦夜多息。從茲家業荒，共落風塵跡。

送蘊懽禪者西上

金闕路曾遙，行行值開泰。石房雲未閑，杳杳若相待。高蹤逾履水，何人不傾蓋。早晚承帝恩，再卜林泉會。

送僧

春雲情既高，片段飛虛碧。去留機未消，今古望還積。澄澄天影回，杳杳地形直。別夜共相思，誰栖此泉石。

法爾不爾

夏雲多奇峯，乾城冷相映。借問諸禪僧，那箇堪憑定。乾城高鏤月，夏雲欲爲雨。若謂非全功，子細看規矩。

送諸方化主

空巖暖律回，極目望還普。數點方外雲，幾處人間雨。寥寥滄海月，依依少林祖。去必示勞生，清風立千古。

劉禹端公問雲居雨從何來，東平問官人風作何色。雨從何來，風作何色。龍門萬仞，曾留宿客。進退相將，誰遭點額。



風作何色，雨從何來，不用彈指，樓閣門開，波波稜稜，南方未回。

送僧

松風清未休，水月淡相對，去來非等閑，必許孤雲會。

頌雲門九九八十一二首

三三九九八十一，一一觀風隨，召出千古有誰同，共知一毛師子乘毛畢，九九八十一，大動不豎賞，若謂無該說，金剛會合章。

烏龍和尚

空巖清夜坐，薜徑積深雪，眼目思古人，徹曙落殘月，重敲石磬寒，猿挂枯枝折，杳杳無限情，分明向誰說。

秋日送僧

邊鴈影邪，寒蟬聲速，乘時彗流，遠別巖谷，林驚一葉兮，微風觸袖，水肅百川兮，片月在目，因憶象骨老師曾送人，行行不謂抽金鐵。

早參示衆

曉天雲靜濃霜白，千峯萬峯鏤寒色，驪龍失珠知不知，無限平人遺點額。

春風辭寄武威石秘校

春風何蕭蕭，和雨復兼雪，折花功未深，偃草勢曾烈，曉城癡愛老，怯寒對清拙，裏巖影響士，難御同孤劣，龍峯人不來，柴門亦休閉，松頭栗鼠下，時把藤牀齧，庭際霜禽歸，屢啄苔錢缺，一旦

春風息，暖日生林樾，幽徑磐石上，拄筇行且歌，無絃兮莫彈，有語兮存舌，冷落流水聲，古之若爲說，凋殘早梅樹，今之若爲別，俯仰身力輕，翻憶春風切，爲吾吹卻塵，欲革分岐轍，爲吾吹卻雲，欲開遠空月，不知天地間，堪與誰交結。

送百丈專使

大雄孤頂曾遐舉，徧索諸方誰敢拒，乳竇峯前捋虎鬚，再得完全又歸去。

送清素禪者之金華

古策風高餅浪圓，春雲片段分清絕，金盆後夜孤頂寒，去去誰同落殘月。

擬寒山送僧

擇木有靈禽，寒空寄羽翼，不止蓬萊山，冥冥去何極。

送如香大師

榜檀葉落雨初歇，天外風清亦何別，後夜蓮城溪月寒，孤光誰共倚寥泬。

寄子秘丞二首

石徑通巖竇，引步蹙歌側，蓬萊人不來，掃盡蒼苔色，飛瀑千萬層，五月狀冰雪，將期雲霧開，永夜對孤月。

再成古詩

霜花一籟中，玉童摘未摘，斯言如不聞，千古動愁色，因憶商山吟，在鳥如在白。

答當生不生

咄咄休強名，芻狗亦爲累。寂寥金粟身，曾未求諸己。

戲靠安巖呈雙溪大師

陝府鐵牛却知有，春秋幾幾成過咎。一身還作二如來，黑白不分辨香臭。

疏黑白無從

天地不仁，萬化蠢蠢。若謂非緣，竹何從筍。髮兮髮兮，黑白是準。

暮冬感懷寄瑞巖禪師

雪水透松檜，遲遲結清淺。病眼時懶開，幽情況難遣。故人久相別，飛文屢慙覲。仰謝十二峯，分照月如翦。

送知久禪者

霜竹凝寒携九節，銅餅浪鎖千溪月。天上人間不自知，行行誰共分清絕。

送慶顏禪者

巖桂風清香露滴，定起高秋映虛碧。斷雲不是歸帝鄉，飛落人間有誰識。

春日懷古四首

門外春將半，巖水暖有聲。玄沙曾未到，虛得偃溪名。

門外春將半，青青野色分。桃花開欲盡，無處覓靈雲。

門外春將半，群芳鬪盛時。鄰家有庭柏，諸祖共相知。

門外春將半，幽禽語共新。寶陀巖上客，應笑未歸人。

送僧之金陵

勝游生末跡，杳自狎時群。卷衲消寒木，揚帆寄斷雲。曙餅花外汲，午磬浪邊聞。別後石城月，依遠共分。

送僧

知方流古意，雲樹別諸鄰。月不澄微水，山應立是塵。靜空孤鷲遠，高柳一蟬新。欲究勞生問，歸思莫厭頻。

千里不來

不見古君子，因循又隔秋。浮生多自擲，好事更誰留。碧嶽高沉月，寒雲靜鎖樓。宗雷何處是，白鳥下汀洲。

僧歸雪上

海國浮輕幟，悠悠興未闌。草隨春岸綠，風倚夜濤寒。沙鷺宜相狎，霜蟾望更寬。河聲西聽日，誰得共雲端。

春晴野步

乘興携多士，遲遲傍水濱。春山不在目，啼鳥共誰聞。片石寒籠藓，殘花冷襯雲。只應融老輩，塵際境猶分。

賦瑞雪送穆大師

五六皆名出，飄花獨見稀。若教同一色，還似負群機。玉馬猶空說，銅鉞轉更非。爭如千萬里，相

對其依依。

送鐵佛專使

荷策來尋我，泛舟思舊山。不知何處月，相照在深灣。風助秋濤急，雲兼野樹閑。到時如請益，先憶趙州關。

同于祕丞賦瀑泉

大禹不知鑿，來源亦自成。色應鄰衆白，聲合讓孤清。遠勢曾吞海，飛流未噴鯨。靈槎如可泛，天派問歸程。

送簡能禪者歸仙都

荷策下丹嶂，紛紛雪正飛。浮生誰未到，舊國自重歸。雲背猿聲斷，天遙鶴影微。蓮城古風月，又得振清機。

天竺送僧

雪霽蓮峯頂，孤禪起石牀。向時機自絕，異域路空長。啼狖衝寒影，歸鴻見斷行。後期無定跡，煙水共茫茫。

寄石秘校

重林冥坐久，引望復遲遲。煩暑未消日，涼風來幾時。天雲飛積火，巖溜散垂絲。欲擬相尋去，浮生已共知。

因事示衆

客從遠方來，遺我徑寸璧。中有四箇字，字字無人識。清涵鯨海寬，冷射蟾輪窄。今朝呈似看，請道末後句。

靜而善應二首

觀面相見不在多，端龍蛇易辨衲子難。講金鎚影動寶劍光寒，直下來也急著眼看。對揚殊特本同參，誰自遼空強指南。今古不存師弟子，一輪秋月印寒潭。

自誨

麟龍不爲瑞，草木生光輝。三尺一丈六，且同携手歸。暫爾懲世師，巍巍何巍巍。

宗門三印三首

印空印水印泥，炳然字義還迷。黃頭大士不識，敢問誰得親提。  
印泥印空印水，匝地寒濤競起。其中無限鱗龍，幾處爭求出轍。  
印水印泥印空，衲子不辨西東。撥開向上一竅，千聖齊立下風。

革轍二門四首

劫火曾洞然，木人淚先落。可憐傳大士，處處失樓閣。  
德雲開古錐，幾下妙峯頂。喚他癡墨人，擔雪共填井。  
祖佛未生前，已震塗毒鼓。如今誰樂聞，請試分回互。  
宛轉復宛轉，真金休百鍊。喪卻毗耶離，無人解看箭。

擬戈者墓

翠羽立高枝危巢對落輝碧潭千萬丈直下取魚歸。

透法身句二首

潦倒雲門泛鐵船江南江北競頭看可憐無限垂釣者隨例茫茫失釣竿。  
一葉飄空便見秋法身須透鬧啾啾明年更有新條在惱亂春風卒未休。

靈隱小參

六合茫茫競不知靈山經夏是便宜虛堂夜靜無餘事留得禪僧立片時。

因雪示衆

清光欹月不相饒堆積虛庭卒未消爲瑞爲祥也難得不知誰解立齊腰。

祕魔巖

把斷重津過者難擎杖須信獨體乾蒼山到後知端的同死同生未足觀。

保福四謾人

竿木隨身老作家逢場作戲更難加謾人謾我無人會水長船高眼裏沙。

靈雲和尚

本無迷悟數如麻獨許靈雲是作家借問徧參諸祖客不知何處見桃花。

僧問緣生義

義列緣生笑未聞孰呈布鼓向雷門金剛鐵券諸方問報道三千海岳昏。

名實無當

玉轉珠回祖佛言精通猶是汚心田老盧只解長春米何得黃梅萬古傳。

迷悟相返

霏霏梅雨洒危層五月山房冷似冰莫謂乾坤乖大信未明心地是炎蒸。

道貴如愚

雨過雲凝曉半開數峯如畫碧崔嵬空生不解巖中坐惹得天花動地來。

大功不宰

牛頭峯頂鎖重雲獨坐寥寥寄此身百鳥不來春又過不知誰是到庵人。

晦跡自怡

圖畫當年愛洞庭波心七十二峯青如今高臥思前事添得盧公倚石屏。

五老師子

踞地盤空勢未休爪牙何必競時流天教生在千峯上不得雲擊也出頭。

與時寡合

居士門高謁未期閑隈巖石且相宜太湖三萬六千頃月在清波說向誰。

宜謙山主赴鄞城命

休向千峯過好時白雲高臥趣還卑塗中無限未歸客不得相依更待誰。

庭前柏樹子二首

七百甲子老禪和安貼家邦若是他人問西來指庭柏却令天下動干戈。

千聖靈機不易親，龍生龍子莫因循。趙州奪得連城壁，秦主相如掩喪身。

贈琴僧

太古清音發指端，月當松頂夜堂寒。悲風流水多嗚咽，不聽希聲不用彈。

送僧

帆挂澄江雨霽時，綠鋪春岸草離離。定乾坤句輕相送，逢著知音舉向伊。

送僧之婺城二首

孤雲徒自類行蹤，高指金華思不窮。日暮輕帆映秋色，沙禽啼斷一江風。

婆溪煙景稱生涯，輕泛蘭舟意未賒。八詠清風好相繼，碧雲流水是詩家。

送文用庵主歸舊隱

太白峯前舊隱基，杉松寒翠滴無時。經年拋却又歸去，再聽巖猿只自知。

送顯冲禪者之書上觀兄著作

選佛還官應在我，難兄難弟不唯他。汀花岸草芳菲日，遠遠清風爭奈何。

送寶用禪者之天台

春風吹斷海山雲，別夜寥寥絕四鄰。月在石橋更無月，不知誰是月邊人。

立沙和尚

本是釣魚船上客，偶除鬚髮著袈裟。祖佛位中留不得，夜來依舊宿蘆花。

偶作

拾翠尋芳烈夜燈，蘆芽穿膝笑無能。飛泉冷淡與誰聽，空落斷崖千萬層。

送僧

路岐長草帶青青，雲片相兼野思生。多謝春風莫吹散，等閑爲蓋贈君行。

送純禪者

莎蘿雨滴蒼苔痕，前峯後峯啼斷猿。携筇別我下層翠，何處靜敲仁者門。

和頑書記見寄

古松吟遠石磷磷，湯惠休辭豈易聞。紅葉寫成藏不得，暮風吹斷碧溪雲。

送允誠禪者

飛泉列岫壓窮野，冷碧寒青光闕射。片雲片石何太高，爲誰留在長松下。

送僧

古藤枝寒索索，方倚靠又拈却。海闊天遙非等閑，風前曾共孤雲約。

送清禪者

瘦藤春雲深天涯，去無侶時笑野泉聲。似共流鶯語落落，風規今古情相逢。會有知音舉。

辭于祕丞

永夜潛思槁木身，蓬仙門館漸經旬。雖干清政爲高客，爭奈白雲無主人。巖瀉瀑泉機未息，雨零寒葉夢猶頻。此時賢宰容歸去，古像焚檀祝有因。

送僧

涼颺新葉墜巖陰，禪起高秋別翠岑。孤月冷光清有興，斷雲閑影合無心。餅分吳浪情何極，鉢化膺門道更深。好是却廻舊房日，倚欄同看橘鋪金。

往復無間十二首

平旦寅，朕兆之前已喪真。老胡鶴樹懶開口，猶舉雙趺誑後人。日出卯，萬國香花競頭走。邯鄲學步笑傍觀，豈知凶禍逐其後。食時辰，大嚮那堪列主賓。維摩香飯本非設，怪他鶩鷺獨生瞋。禺中巳，荆棘園林徧大地。南北東西卒未休，金剛煇復從何起。日南午，寥廓騰輝示天鼓。鬱頭藍已定全身，何假周行誇七步。日昃未，碧眼胡來欺漢地。九年計較不能成，剛有癡人求斷臂。晡時申，急急逃生路上人。草鞋踏盡家鄉遠，頂罩燒鍾一萬斤。日入酉，室內覆盆且依舊。塵塵彼彼丈夫兒，井中之物同哮吼。黃昏戌，寰中不礙平人出。瓦礫光生珠玉閑，將軍豈用驅邊卒。人定亥，六合茫茫誰不在。長空有月自尋常，霧起雲騰也奇怪。半夜子，樵唱漁歌聲未已。雨花徒說問空生，高枕千門睡方美。鷄鳴丑，貴賤尊卑各相守。忙者忙兮閑者閑，古今休論自長久。

送僧

巖泉高鎖黃金宅，裊卷秋雲古標格。離歌誰贈欲行人，徧界同爲一宿客。春色依依日杲杲，南

北東西好看好，鬧市撈笑嬌尸迴。草頭青點俱眠老，阿呵呵。人間天上不知他，穉竭節有頂門眼。歸去清風拂薜蘿。

寄李都尉

水月拈來作者殊，東西南北設區區。也知金粟李居士，端坐重城笑老盧。咄。

寄池陽曾學士

山萬重兮水萬枝，堆青流碧冷便宜。筭來免得生遙恨，不在詩情在祖師。

寄四明使君沈祠部二首

露冕民謠物物成，江山千里古風清。曹溪客是無機者，日在深雲聽頌聲。蒼蒼德也亦如斯，政化全歸副倚毗。十萬人家寫春色，不知誰解立生祠。

寄內侍太保二首

千尺巖泉噴冷聲，草堂雲淡竹風清。蒲團時倚無他事，永日寥寥謝太平。蘿龕薜室狎猿猴，忽捧綸言挂紫袍。恩大不知何以報，五雲天上望空勞。

寄曹都護

故國休言萬里程，爲官爲釋且分明。道存不必曾傾蓋，俱有清風匝地生。

送僧

虎角深藏不待時，全機會許雪林知。如今百越拈來也，草偃風行是信旗。

寄靈隱惠明禪師二首

慶元府靈寶明覺大師祖英集 上

千峯影裏葉初凋，極望還將慰寂寥。也謂毫端不相隔，秋雲秋水奈遙遙。

送益書記之雪水

白蘋汀是舊家鄉，歸興蘭舟泛渺茫。日暮沙禽啼欲斷，不知誰在碧雲房。

慶元府雪竇明覺大師祖英集 上終

慶元府雪竇明覺大師祖英集 下

三寶讚并序

予天禧中，寓迹靈隱，與寶真禪者為友。或游或處，因以道義相投，投報相襲，冷泠然自樂。天常之性也。一日，真公謂予曰：「愚近偶作三寶讚三十韻，宜請庶唱，因披閱加歎，率爾而繼之。類蝕木也，俄屬分飛，吳礎將二十載，殊不復記憶。真公不以事曠誠隔，遠遠附僧如衍而至，再窺荒斐，愧慰多集。且夫聖人之立言也，必朕虛必冥奧，使文外之士，同振古風，垂千萬世。又焉知來者及之不及，道在其中也。斯之贊辭，曾不沾不待，但遐仰覺皇宗致，禪徒告而行之，得不曲為序引。」

佛寶

甘蔗流苗應刹塵，覺場高發利生因。紫金蓮捧千輪足，白玉毫飛萬德身。孤立大方資定惠，等觀含類捨怨親。埃星相好中天主，匝地名聞出世人。螺髮右旋仙島碧，月眉斜印海門新。鸞翔鳳舞非殊品，象轉龍蟠絕比倫。瓔珞聚中騰瑞色，花鬘影裏奪芳春。慈儀戀望知何極，梵德言辭莫可陳。何字香分無量義，頂珠常照百由旬。雙林孰謂歸圓寂，坐斷乾坤日見真。

法寶

後得智生功德聚，大悲留演潤禽魚。貫花雖自科千品，標月還歸理一如。過量劫應期廣布，刹

那心合未忘書，四衢道內拋紅燭。五欲波中綻白菓，排斥衆魔登壽域。引携諸子上安車，義天星象熒熒也。辭海波瀾浩浩歟，違背此恩難拯拔。遭逢末世豈躊躇，聞來半偈須相數。惜去全身莫共居，飛辯恨曾虧激問。願幽欣且免長噓，生生頂奉輝心鏡。廓照塵勞信有餘。

僧寶

方袍圓頂義何宣，續燭千燈豈小緣。花雨座前猶滯相，虎馴庵畔尚稽詮。巖栖冢宿難依望，鶴貌雲心迥灑然。寶杖夜鳴寒嶠月，銅瓶秋嗽碧潭煙。名標練若澄誼滑，迹念昏衢警睡眠。林下雅爲方外客，人間堪作火中蓮。情高不是超三際，道在非同入四禪。浮世勉誰知，逝水深峯甘自聽。飛泉苾芻草覆僧祇後，玳瑁孟傳古佛先。珍重覺皇有真子，坤維高步列金田。

夏寄辯禪者山房

枕簟雲作屏，必固黃金宅。軒窗月爲晝，豈止虛生白。麟龍愧頭角，鵬鴉慙羽翮。庶擬群類心，在寬如在窄。

和錢太博見寄覓山藥二首

文柄誰持合自持，憂民風槩乍清羸。禪林草藥如爲效，願見皇家急詔時。  
聖君鴻業在扶持，日角龍章固不羸。攜藻玉堂歸未晚，百花開赴御筵時。

送錢太博應賢良選

賢才當召試，彪炳對吾君。千古不遺恨，八元應主文。岸花明列旆，天籟拂微雲。後夜觀垂象，中台位已分。

答天童新和尚

中峯深且寒，欹接海邊島。松凋不死枝，花坼未萌草。飛瀑吼咬宮，幽徑分鳥道。伊余空寂徒，浮光寄枯槁。冥遊天地間，誰兮可尋討。孤立雲霞外，誰兮可長保。茲來仁者來，還稱太白老。荷策扣巖扃，重席展懷抱。示我商頌清，休誇郢歌好。報投慙扞辭，難以論嘉藻。

和頌

玲瓏巖古寺，冠乎明越境。海眼通洌泉，天心聳危嶺。嘗游與未闌，遐想神忽凝。彼士真覺雄，相鄰不孤迥。吾愛濟橫流，孰云煩慮屏。吾愛整頹綱，豈止浮根靜。棲梧瑞九包，追風駿十影。願我不爭衡，與誰閑闔茗。乘時既磊落，照世非昏暝。佇爲王者師，三千統摩頂。

贈別太臻禪者

武陵山水何祕遠，元化功兮不容易。壇曾善卷韜龍光，洞亦桃花副麟趾。仍思昔日吾祖浩浩提綱宗，消息曠斷寰宇空。又聞高大舜讓公器，祥瑞却生蘆葦叢。人由境兮冥道德，境有人兮分玉石。臻禪本自假殊方，忽向其中誕孤跡。迢迢海甸來尋我，一十二年同冷坐。羽翼搏風今是時，拂盡天雲乃飛過。

雲門俱字

百草頭何太極，重與禪徒下。錐刺雲門俱字好參詳，雪峯棍毬亦端的。黛非青兮藍一色，辰錦砂兮敢言赤。紫羅帳裏有真珠，曹溪路上生荆棘。還會麼，此時若不究根源，直向當來問彌勒。僧問四賓主，因而有頌頌之。



如何是賓中賓云滿面埃塵又曰噫

頌

賓中之賓少喜多瞋丈夫壯志當付何人如何是賓中主云兆分其五又曰引

頌

賓中之主玄沙猛虎半合半開唯自相許如何是主中賓云月帶重輪又曰收

頌

主中之賓溫故知新互換相照師子嘯呻如何是主中主云大千捏聚又曰揭

頌

主中之主正令齊舉長劍倚天誰敢當禦

都頌

賓主分不分明預絕異聞解布勞生手寄言來白雲

令僧把

七八既難直須教透來不在前去不在後羅細自看緊緩相就一日圓成呈似君想得諸方未  
知有

送知一入京兼簡清河從事

六月千江水似秋片帆高挂岸雲收行行莫謂朝天闕況倚文星在巨舟

送德珉山主

溪山春色映雲袍愛住隍城意轉高翻笑忘機自安者不能垂手入塵勞

送僧二首

紅芍藥邊方舞蝶碧梧桐裏正啼鶯離亭不折依依柳況有春山送又迎  
祖域高親日未央家林歸去意何長舊交不識初相見曾振滄溟奪夜光

送崇己闍黎歸天台

石橋雲瀑冷相侵蘇徑蘿龕入更深却羨撻笻遠歸去半千尊者是知音

送遂悟上人之會稽

百越江山冠九州如屏還媿謾相褒惠休此去多吟賞贏得清風價轉高

送僧四首

乘與飛帆別翠峯水光春靜冷涵空到人若問曹溪意祇報盧能在下風  
禪石飛流灑碧莎利生還喜下雲坡途中若立三千客剔起眉毛不在多  
梅檀林裏振金毛四顧清風拂幾遭曾許全威作雲雨不知何處是塵勞  
雲衣輕拂下層巒松檜生風觸袖寒誰問親游乳峯意百千年後與人看

寄員外黃君

碧岫層層列杳冥漣漪環遠賁寒青韜藏未識古君子空仰嘉聲過洞庭

送僧

五色祥麟白月輪乘時應不念離群松根石上未歸日誰看暮山飛斷雲

寄劉秀才

遠遠飛來一幅書，愈風誠重復何如。相逢相見未期日，目斷千山插太虛。

送僧

古之別今之別，目對春江倚寥泬。三樹兩樹啼斷猿，千峯萬峯落殘雪。花濛濛雨濛濛，坤維步步生清風。

聞百舌鳥送僧

曾來芳樹幾回飛，煙靄初晴又見伊。巧語向人莫相笑，知音知後更誰知。

送中座主入廣

舶主船中寄惠持，雲霞無跡共依依。海山見說多嘉賞，莫便因循忘卻歸。

送隴西秀才入京

國器難藏孰可知，携來書劍莫遲遲。明年桂籍登文陣，奪取龍頭更是誰。

送僧

雪殘春鳥路迢迢，水靜雲開見碧霄。別後誰同此深意，祇應孤月共寥寥。

因仰山氣毳頌

四大假合非虛妄，備備侗侗爲一相。東西南北不相知，留與衲僧作勝樣。

赴翠峯請別靈隱禪師

臨行情緒懶開言，提唱宗乘亦是閑。珍重導師并海衆，不勝依戀向靈山。

送僧歸闕

雪老當年曾入嶺，真禪今日又思鄉。孤帆隱隱曾唯我，月照夜濤空渺茫。

送僧

春風颺颺花正飛，紅霞碧靄籠高低。越山日暮少林客，應聽子規深夜啼。

寄陳悅秀才

水中得火旨何深，握草由來不是金。莫道莊生解齊物，幾人窮極到無心。

寄錢唐觀音朋山主

遠念依依關附書，還同秋水淡相於。沖雲況是曾無定，幾掩寒蟾出太虛。

送僧

極目春光水照空，岸莎汀草碧茸茸。三千里外生靈望，獨倚寒藤振祖風。

春日示衆二首

門外春將半，閑花處處開。山童不用折，幽鳥自銜來。

門外春將半，閑花處處開。山童曾折後，幽鳥不銜來。

寄烏龍長老

雪帶煙雲冷不開，相思無復上高臺。江山況是數千里，只聽嘉聲動地來。

寄太平端和尚

千朵奇峯杳靄間，石房長帶瀑聲寒。鳥啼花發尋常事，松本青青雪裏看。

送僧

千峯雨雪時，別我情何極。不知天地間，更有誰相識。

因官人請陸座

曉天雲靜冷涵霜，滿檻風清敵夜光。莫謂座間人不識，孤明孤影射虛堂。

因金鵝和尚語藥病

藥病相治見最難，百重關鑠太無端。金鵝道者來相訪，學海波瀾一夜乾。

賦沖雲鶴送僧

側翼雄飛天勢闊，電閃星流太輕脫。南北東西相對看，千里萬里阿喇喇。

風幡競辨二首

不是幡兮不是風，衲僧於此作流通。渡河用筏尋常事，南山燒炭北山紅。不是風幡何處著，新開作者曾拈卻。如今懵懂癡禪和，謾道玄玄爲獨腳。

漁父

春光冉冉岸煙輕，水面無風釣艇橫。千尺絲輪在方寸，不知何處得鯢鯨。

牧童

嘔啊喝與那嗚咿，百草拈來鬪不知。日晚騎牛未歸去，指前坡笑又噓噓。

送僧

嵩房高下拆寒梅，極目寥寥鴈影回。相別相逢竟何事，一聲江上發春雷。

寄天童疑和尚

經旬抱疾阻春霖，莎砌重重蘇暈侵。曾約僭游未能得，暮山空鎖碧雲深。

送僧入城

雲籠碧嶂月籠臺，此去城中早晚廻。不爲佛光謁韓愈，問君何事出山來。

病中寄諸化主

雪裏梅花見早春，東西南北路行人。不知何處圓蟾夜，同念山頭老病身。

和于秘丞見召之什二首

民瘼求來吏放閑，萬家深夜啓重關。齋中既是清涼國，應笑支公別買山。垂垂甘自養衰殘，度歲無人到竹關。何幸文星枉嘉什，殷勤相喚出層山。

和王殿直見寄二首

華野非殊古所難，得安閑處未爲安。大方無外誰相到，空笑重雲鏤碧巒。清風凜凜字人官，堪對彌天釋道安。不日歸朝狎鴛鴦，也須音問寄層巒。

送僧

澄江依棹碧光流，風冷兼葭雨乍收。別夜新吟許誰約，白蘋汀上月陵秋。

送僧歸永嘉

韶石曾披此性靈，三年孤與急流爭。永嘉舊隱今歸去，堪聽海濤中夜聲。

兔角拄杖

少室傳來兔角杖，千聖護持爲頂相。虎踞龍蟠勢未休，雲影山形冷相向。有時閑倚在虛堂，寥寥匝地凝秋霜。有時大作師子吼，德嶠臨際何茫茫。今日提來還不借，分明普示諸知識。解拈天下任橫行，高振風規有何極。

送從吉禪者

君不見行路難，亦容易。握草爲金不爲貴，難會平地湧波瀾。易復到處列祥瑞，堪笑堪悲能幾幾。天上人間立高軌，兄弟十字越參星。一義同心淡秋水，因憶韶陽古風骨。石火電光遲出沒，隔身之句是程途。扣門之間非窠窟，殷勤報君君記取。方外周游看爪距，虎狼叢不過知音。剔起眉毛便歸去。

寄承天長老

道義相資復是誰，巖房深夜思遲遲。海山雲靜見孤月，高照婺城人不知。

送僧

古路枝分列洲渚，網分領兮若爲舉。病眼方開忽送人，落花驚斷山禽語。親禪客親禪客行復行，獨步坤維消此情。

送因大師

瘦藤清對紫方袍，閑步坤維意轉高。若到慎江人借問，金輪王子是吾曹。

送實師弟

天倫會重意難分，爭奈孤蹤若斷雲。去去休同亮禪者，西山一入杳無聞。

送新茶二首

元化功深陸羽知，雨前微露見鎗旗。收來獻佛餘堪借，不寄詩家復寄誰。乘春雀舌占高名，龍麝相資笑解醒。莫訝山家少爲送，鄭都官謂草中英。

賦月生雲際送誠監寺

皎潔離雲鶴夢時，孤光還與雪相宜。金盆後夜重垂影，拂盡天風不自知。

送僧之金華兼簡周屯田

瘦藤輕屨薛衣并，路過危峯截杳冥。若到金華拂雲霧，不應容易見文星。

送僧之永嘉

故國不是阻天涯，花木光中見獨歸。屢水鄞江人莫問，月分春浪冷依依。

寄送疑長老

德不孤兮必有鄰，四明留住是因循。如今高步錢塘境，只許靈山箇老人。

放白鷗

朱冠青戩雪爲毛，不近鸞鳳意亦高。放爾雲林莫廻首，如今何處是仙曹。

喜禪人廻山

別我遊方意未論，餅盂還喜到雲根。舊巖房有安禪石，再折松枝拂蘚痕。

送僧

七尺巖藤握便行，舊山歸去幾多程。相逢忽問迢迢意，應發春雷動地聲。

送僧歸天童

峩峩太白峯，倚翠列霄岸。羨君乘興歸，凭欄與誰看。

和曾推官示嘉遁之什

少微星出古風還，匝地聲光不掩關。三館峻遷同陌路，九華高臥是蓬山。巖莎步入祥麟穩，海樹飛來白鳳閑。祇恐致君休未得，蒲輪重到薜蘿間。

經古堰偶作

出城四十里，古堰若天外。飛棹清淺中，孤影自相對。

謝張太保見訪

老病還同葉半凋，經旬門掩夜蕭蕭。海城都護曾垂訪，一片清風慰寂寥。

送宗朴禪者

洞庭乳竇皆泉石，抱疾何緣寄幽跡。曾列狂機一二三，東山西嶺非相識。屈指頰眉不可尋，雲飛雨散空沉沉。如今轉覺流年隔，強把冥冥苦搜索。縱止言欺白雪辭，寧忘笑與黃梅客。朴禪者，珠月有光慙照夜。

送尙辭

浮圖之子，履道爲貴。天兮地兮，何泰何否。動無飾非，靜還雕僞。辭也云行，後生可畏。

歌寄留英禪德

當時臨際辭黃檗，或指河南或河北。英禪此日下中峯，机案曾焚笑仍則。九包一角慙稱瑞，導

月觀星亦非，意爭似韶陽。振古風，半途未肯還。希冀歸去來，歸去來。飛泉浩浩聲如雷。

送小師元賁

愧爾求師爲吾弟子，學雖無聞道亦可擬。平飛辯月照復流水，斯意斯言今如不忘。行行躊躇兮步蘭芷，善應殊宗吾不知也。思之。

送文信歸廬岳

春色未深與無遲，早餅謝九江峯尋五老。到日攀蘿獨上時，依依莫忘海山腦。

送侃禪者之舟丘

石橋多古跡，路峻少人過。如同白日閑，冷拂青苔坐。寒老若相逢，爲吾略嘲破。

送賢山主

野水春山風光極，目千里萬里。太遲太速，絕域澄澄兮。非犀炬可照，希聲杳杳兮。非鳳膠可續，葉落花開知不知。人天景行爲高躅。

示衆

丫角女子白頭絲，報備諸方作者知。借問住山何境界，春風颺颺春鳥喧。喧翠峯不能助發心，印卻是他傳。

和范監簿

吏散簾垂思莫窮，山光溪影恣相容。誰誇靖節偏栽柳，自笑隱居高聽松。丹闕尙遙芝檢密，認庭閑列薜花重。巖間野客雖多病，終再携筇謁士龍。

又

品彙不自適，善政還可尋。縣樓清夜上，烏月忽雲侵。誰有古菱花，照此真宰心。

因香嚴和尚

我有一機禪子須知，爍迦羅眼，總是膠鷄。若人借問，伏惟伏惟。

送雄直歲

罷參還欲勘諸方，竿木隨身不易當。是則俱行非則禽下，驪憶古來興化老。主賓用盡力牽羊。

爲道日損

三分光陰二早過，靈臺一點不措磨。貪生逐日區區去，喚不迴頭爭奈何。

疏古

我有面鏡到處懸挂，凡聖不來，誰上誰下。

訪俞秀才

萬疊雲山未得歸，寂寥心許老盧知。江城雨雪書名紙，不謁鴻儒更謁誰。

再酬

萬卷無書道用歸，閑文公也未須知。倚天長劍如重戰，更有龍頭復是誰。

留暹首座

從龍爲雨復清閑，片段依依水石間。慙問秋風欲吹散，不能留得覆青山。不慙問者爲我留之。

送俞居士歸蜀

何處深棲役夢頻，青城拋卻數溪雲。如今老大歸難得，祇寫情懷遠送君。

和王殿丞蓼粟種之什

織織圓實占芳春，得自侯門勝楚珍。開葉開花人不曾，百千年是等閑身。

和江橋晚望

公餘縱目望江山，萬化窮來罔象間。聞說聖君將下詔，未容清澹與僧閑。

病起示衆

門揜還同歲月摧，石牕經雨積莓苔。一牀枕簟淨名老，時見斷雲孤月來。

送麻居士

紗帽山儀白苧袍，遠披孤頂近吾曹。携來七尺霜前竹，劃斷天雲不放高。

酬李校書

一回辭我一回吟，戀巖叢意轉深。驪謝霜松不凋落，與君同有歲寒心。

苦熱中懷寄永固山主

火雲高下影相連，幾欲披尋恨不前。無限清風無處問，只應遲步透林泉。

送元安禪者

群峯杳藹留不住，遠道依依祇藤屨。舊隱羅龕付與誰，寒猿後夜啼高樹。

賦病鶴送奉倫禪者

欲飛飛未得，冷泊杉松枝。如何垂天雲，遠遠同一涯。

偶作

列岫霽新雨，凭欄祇澹交。夕陽明遠水，秋葉露空巢。思極曾無玷，神清未動交。祇應千古意，誰得共雲坳。

謝鮑學士惠臘茶

叢卉乘春獨讓靈，建溪從此振嘉聲。使君分賜深深意，曾敵禪曹萬慮清。

因遊育王亭寄牧主郎給事

冷翠千萬峯，當軒列如黛。蒲團及禪板，永日澹相對。形雲曾無機，燒松亦成蓋。遠謝幽隱情，難與台星會。

送遇能禪者

湖遠嚴城列象寬，萬家臺榭水光寒。片帆隱隱生遙極，誰問曹溪意轉難。

送覺海大師

秋雲巖葉雨悠悠，半逐風馳半水流。憑問禪家有何意，不知方外若為酬。

送曾侍禁

冷匣秋波射斗星，鐵衣隨從古霜清。宣池莫問當年事，一片威風動地生。

病起酬如禪德

大明一寸光，腐草一何假。人命呼吸間，誠哉是言也。呼之曾已休，吸之尙未舍。寄問諸苦源，來者不來者。

送雲禪德

古之送人言作懷寶，我慙老病因乏辭。藻熊嶺迢迢，今曾立夜雪。謝池依依兮笑生春，草頭角麟龍安可論。清風步步應相討。

送久禪德歸蘭亭

右軍墨池月，照我復照誰。千里忽相到，中峯多病師。

送義大師

巖房抱病經一月，門有諸生阻來謁。長往之期猶未能，七十之年更何說。若耶溪老忽留語，溪上舊遊且歸去。春風颺颺兮兼斷雲，弱柳依依兮帶輕絮。古今離恨雖如此，動靜於吾亦多意。高握霜筇獨步時，音書莫忘遠飛寄。

酬海宗二侍者二首

孫之得蘭，其道匪難。扶吾病起，如珠在盤。一兮二兮，自看誰看。蘭之得孫，其道必存。扶吾病起，古風入門。二兮一兮，且論勿論。

謝郎給事送建茗

陸羽仙經不易誇，詩家珍重寄禪家。松根石上春光裏，瀑水烹來鬪百花。

送山茶上知府郎給事

穀雨前收獻至公，不爭春力避芳叢。煙開曾入深深塢，百萬槍旗在下風。

送郎侍郎致政歸錢塘

慶元府雪竇明覺大師祖集 下

帆挂西風別海城，二踈千古道相應。誰誇富貴沾時譽，自笑經綸作技能。殘葉賦題紅片片，遠山供望碧層層。武林到日符嘉遁，高訪巖扃祇許僧。

山行逢勲禪德

亂巖秋日無他作，策杖層層止寥廓。四顧有誰分野情，一點彤雲起深壑。蘚石遲遲略輕蹠，逢箇衲僧忽驟步。頻喚回頭不肯回，及至回兮眉卓豎。阿喇喇，千里萬里橫該抹，咄。

送小師元哲

老盧之子，四三二一，將欲振飛騰。此叢室，松凌霜兮運青，水帶巖兮流急。南北東西雲開見日，永豐莊新植徑松，忽二本鄰偃，抒辭紀之。

雙偃松何似，蝶文結數遭。清聲雖競發，寒影不相高。對客圓分蓋，孤禪翠滴袍。若教圖畫得，爭奈有蕭騷。

送白雲宣長老

鄞江秋晚忽成春，況有台星作主人。去去高携古刀尺，二千年運續芳塵。

送親禪者

萬木帶秋聲，古今念睽別。我有贈行意，臨行爲君說。重巖休滯雲，遠水且觀月。生生知不知，天風助清徹。

送顯沖禪者

聚散非常準，古今亦標格。如何無事人，遠似未歸客。秋風生群林，野水資寒色。誰兮謝寸陰，觀

彼青山白，沖禪行復行。五葉待時拆。

送天童普和尚

迢迢別海涯，帆挂抄秋時。島樹落寒葉，人誰訪祖師。浪開遊象急，天闊過鴻遲。早晚歸林下，千徒不共知。

張秀才下第

得第何人愧不平，道存顏巷亦爲榮。應知未喪斯文也，且把新詩樂性情。

寄久監收

田中稻熟及時收，顆粒圓成免外求。一日歸來古巖上，白雲紅樹共悠悠。

暮冬夜坐寄岫禪者

碧落無片雲，虛庭積深雪。負春還有誰，徹曙對孤月。巖松影拂翠，不斷瀑水聲。來聽忽絕，岫禪知也。如未知，八面清風遠待時說。

寄崇壽懷長老歌

寂住峯兮觸星斗，寂住師兮古爲道。死中得活未輕酬，不許夜行投曉到。藹藹聲光一百年，吾其後兮吾其先。振領提綱笑多事，掩扉塞路空依然。龍朔老盧同兀兀，土爲貌兮金作骨。萬國爭求肯便行，我要重新敲鐵佛。東西南北休云識，枯槁冥冥頗相憶。天外清風結陣來，狂歌遠寄從拋擲。

送廷利禪者



雪峯孤頂誰家路，上兮下兮復何故。曾列三千一半徒，我今獨滿當時數。鯨鱗龍鱗，坤維高步生清塵。休云裴相慕黃檗，額有圓珠七尺身。利禪者利禪者，倚天長劍應牢把。或謂風雲不再來，誰爲蒼蒼分晝夜。

送保禪者

涪江怒激鯨鼈宅，岌岌三山大傾側。冥數俄然一箇來，步武群方作禪客。振聲謂我分綱宗，今兮古兮何恩息。令吾強爲扶辭句，句句字字凜凜生狂風。拂散四七單傳之落葉，掃蕩二三直指之流蓬。似帶微芒敢未勦絕，寒木在握兮全機可笑。秋水橫按兮半提可滅，使八極頂目者不自爭衡。見斯人兮，駕御昂枿。

送鼎禪者

落落禪家流，携筇卷雲毳。別我振辭鋒，夜堂消祖偈。鼎禪之句，霜天飛一鷄。目對彈其滯，春岸立千峯。指掌排其勢，行行復行行。清颺起蘭蕙。

觀泉送演禪者

雲根漱野泉，照空復照月。冷聲曾未消，飛瀾似相別。巖近生風雷，天遙新冰雪。演禪乘與知不知，源流依依共燈潔。

答忠禪者

一字七字三五字，萬象窮來不爲據。夜深月白下滄溟，搜得鑿珠有多許。

和陸軫學士夏日見寄

良牧歸詩匠，雅風消鬱蒸。官清難滯爵，吏散遠同僧。棠樹非煙合，仙槎碧浪乘。因思窮萬化，使君早製圓明鑑。圓冠之序引，或聞或見，令人廣達。千古更無能。

送化主

春色依依籠遠樹，卷帟捲藤躡輕屨。塵世茫茫無限人，不知誰問曹溪路。

送通判劉國博黃中

爲星當貳職，權化不相饒。白屋如多恨，清風何處消。岸鷗窺列旆，大辟看陸朝。別有生靈意，寒枝未變條。

送別陳祕丞古意

悠悠層山雲，斷兮仍復續。離離雙岸草，變兮且兼綠。如何苦雪霜，後凋盡松竹。松竹有節操，雪霜無伎倆。敢折歲寒枝，贈君作嘉賞。行行天地間，清風在誰掌。

送通判學士歸南國

旆擁帆開照德星，天風高興國風清。武夷仙仗知回也，各下祥雲到地迎。千里之外應之，非此則殊侍者也。

和酬郎簽判殿丞

向國心存了了身，大方無外且同塵。江城早晚重相見，解笑宗雷十八人。

歌送范陽盧君兼簡華嚴慧大師

范陽居士來鄴水，動地仙鷗向人起。乳峯直上雲霞開，步驟天衢到如此。茫茫塵世誰知交，當

場問我非相饒，禪家畢竟無他事。古雪巖前曾未消，俄然悵望辭叢室。荷負難兮淚深溢，遠幸流方且莫論。再得從容又何日，迢迢故國殊存想。冷碧柯山分指掌，況有覺雄華藏師。歸去百城共游賞。

送廣教專使

峩峩石頭使乎讓祖己之匪，存聖之奚慕。或妄以山或索云斧，音耗不通兮。清源派分，吾斯語兮。詎可論古。

送微文章

雙蓮亭上送行客，菡萏清香散秋色。野興斷山雲片高，孤影澄江月華白。希聲險絕堪誰知，大道機存曾未可。縱關天常立下風，安教類變叢流火。君不見梁兮闔國難，滯留千古遺恨空悠悠。君又不見魏兮小桂生寒翠，一花對雪開無休。微禪亦並聯芳，德星文星仰蕭酒。物外情深不等閑，環中趣別非輕捨。相訪從容爲我言，屈指多求更何者。

送懷秀禪者

麻衣草座思靈徹，一食安閑更無別。倏忽遷流數百年，杳杳誰來繼其絕。吾今亦是疎慵輩，冷淡身心存慷慨。偶續靈峯照夜燈，遽泛鐵船下滄海。深嗟知困不知休，奔馳駭浪空淹留。縱得長鼈擬何待，堪白頭時好白頭。因觀壞衲秀禪客，清苦如冰復如藥。別我携筇步大方，爲葉爲花恣披拆。伏枕寥寥情意闌，率寫狂歌贈行色。

孤運銘

雲根石壙容身待老，南來北來閑且尋討。五葉一花兮堪對誰，寥寥萬古兮空知有。

寄海會之長老

百花開後一花開，風遞清香遠遠來。誰問黃梅不平事，照中依舊惹塵埃。

雜言送賢專使

使乎誰老作者，百戰場中飛鐵馬。秋水藏來人不知，笑李將軍被擒下。阿呵呵，卻歸湖山唱凱歌。

歌紀四明汪君信士

古君子兮道諸己，道器用兮合天理。同塵還若待時生，觀象不知何處起。荆叢叢襲我叢叢，孝兮悌兮非止中。聚應落落滴仙露，散或泠泠揚士風。風之上兮風之下，近一指兮遠一馬。秋水澹交無限情，夜光照乘胡爲者。伊予匪謂存餘力，詠高義兮困胸臆。巴歌百字巖葉書，飛寄汪門舊知識。

送仲鄉禪德

高兮竺鄉，秋水虛明。夫何之象，堪云指程。知吾不知，笑理出情。謂宜撫掌爾，伽耶城。

真州資福禪院新鑄鐘銘并序

國朝紫微舍人趙公丙戌年出鎮姑蘇，裁情示空巖之客，所恨不能効善財展轉南方以求先覺。如別幅叙雲岳長老令僧惠敏造鐘，既成，剏重樓以虞之。欲爲銘記，且言當使學者有所警悟，槩也。縱能道其歸，禪人惡肯信，惟師爲善知識，行重名當代，願爲此銘，因機垂化，不亦美乎。

然重顯固陋荷

大君子外獎敢不從命輒復引寄

夫形聲未先曠默奚准器用之後幽靈絕常故聖人以鍾爲大惟聖人則之襲兮忘兮求以深矣其能具諸種智對飛雄辨但未兼極有生權化之來未易窮也感通傳稱昔枸留孫於乾竺造青石鍾如青玉色可容十斛頂類諸天腹陷衆寶八角四面花光互分有化如來與日借出明宜祕演或聞不聞王舍城中大千界內匪同鐸鐸者乎今岳禪老於淮甸造青銅鍾如青珠色過百鈞之上旋旁植繞獸蹲熊其或層城晝閑祇園夜永寥寥霜月射寒影以爭輝殷殷地雷發虛音而交振師之唱險資之繼難寅夕鏗鏗主伴索索足使一麟半甲無違真化之方一聽五觀有寄神游之域善存殊應扣惟良哉謹爲銘曰  
准之要衝真之會府中列梵塵居我禪祖參徒駢羅慧敏于槽爰構鯨音息彼輪苦峻橫崇臺金飛碧回斯門屢掩向人或開希兮微兮乍延乍催先聞未及後時不來增悲遐宣無困天理帶識萬端警悟齊起遵晦陟明其母得子塵塵訪誰利利問己大緣斯成大功不宰君奉禹湯臣仰元凱碑勒紺園銘寡文彩庶期妙峯永登滄海

慶元府雪竇明覺大師祖英集 下終

大正九年五月十七日印刷  
大正九年五月廿五日發行

【國譯禪宗叢書】 第六卷

編輯者兼

國譯禪宗叢書刊行會

右代表者

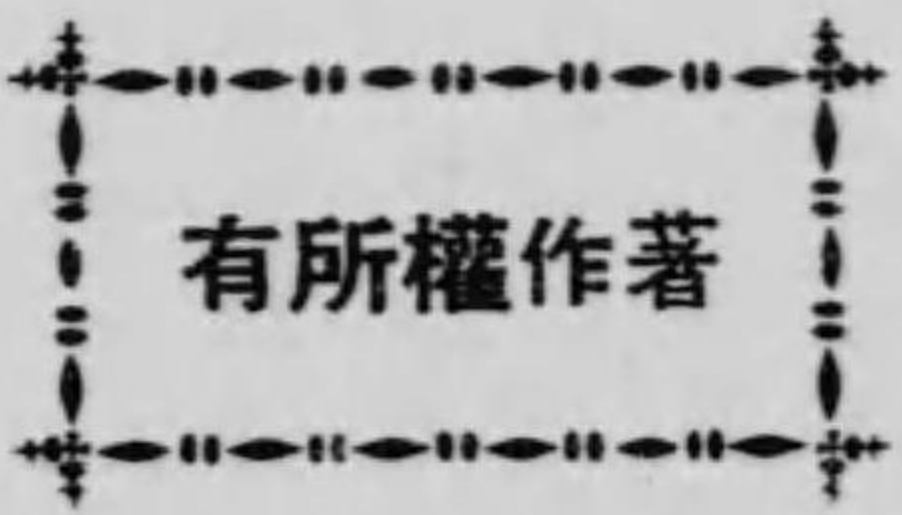
宮 下 軍 平

印刷者

東京市神田區錦町三丁目一番地  
中 島 藤 太 郎

印刷所

東京市神田區錦町三丁目一番地  
神 田 印 刷 所



著作權所有

（非賣品）

發行所

東京市神田區錦町一丁目  
十六番地（二松堂書店內）

國譯禪宗叢書刊行會

電話神田二四七八番  
振替東京四六〇一六番

379  
12



終